

岡山県感染症週報

2011 年 第 49 週（12 月 5 日～12 月 11 日）

【お知らせ】次回、第 50 週感染症週報は 12 月 23 日（金）が祝日のため、
12 月 26 日（月）にホームページに掲載いたします。

◆2011 年 第 49 週（12/5～12/11）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 47 週 5 類感染症 破傷風 1 名（60 代 女）

第 48 週 4 類感染症 つつが虫病 1 名（60 代 女）

レジオネラ症 1 名（60 代 男）

第 49 週 2 類感染症 結核 1 名（40 代 女） の報告がありました。

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、全県で 339 名（定点あたり 4.04 人）の報告があり、倉敷市では感染症発生レベル 2 になりました。

○感染性胃腸炎は、特に岡山市・倉敷市・備前地域など県南部で患者が増加しました。

○クラミジア肺炎は、患者が増加しました。

○マイコプラズマ肺炎は、前週より減少したものの、患者が多い状態がつづいています。

○流行性耳下腺炎は、再び備中地域で感染症発生レベル 2 になりました。

○RS ウイルス感染症は、患者が多い状態で推移しています。

【第 50 週 速報】○腸管出血性大腸菌感染症 1 名（O157 30 代 女）の発生がありました。

○インフルエンザとみられる臨時休業がありました。

▽岡山市 1 ▽倉敷市 8 ▽備前市 2 ▽浅口市 2

○感染性胃腸炎による臨時休業がありました。 ▽倉敷市 2 ▽玉野市 1

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、今年はこれまでに 66 名の発生がありました。冬でも患者発生がみられますので、ひきつづき感染予防に心がけてください。
2. **インフルエンザ**は、全県で 339 名（定点あたり 4.04 人）の患者報告があり、前週（1.88 人）より増加しました。特に倉敷市・備中地域・備前地域で患者が増加し、倉敷市では感染症発生レベル 2 になりました。また、この地域では学校の臨時休業も相次いで報告されています。県内の発生状況・臨時休業情報などは [『インフルエンザ情報』](#) をご覧下さい。
第 48 週（11/28～12/4）速報値によると、全国では定点あたり 0.57 人。岡山県は、第 48 週定点あたり 1.88 人であり、全国の中でも高い報告数になりました。
3. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、特に県南部で増加しました（定点あたり 8.74 → 10.41 人）。第 49 週は岡山市・倉敷市・勝央町で学校の臨時休業が報告されています。詳しい県内の発生状況は [『感染性胃腸炎情報』](#) をご覧下さい。
4. **クラミジア肺炎**^{*}は、患者数が増加しました（基幹定点 5 医療機関あたり 0.80 人）。クラミジア肺炎には、*C. pneumoniae* 肺炎と *C. trachomatis* 肺炎があります。*C. pneumoniae* 肺炎は、飛沫感染により感染し、3～4 週間の潜伏期を経て急性呼吸器感染症を起こし、微熱や乾いた咳が長くつづき、異形肺炎を発症します。マイコプラズマ肺炎は 14 歳以下が多いのに対し、*C. pneumoniae* 肺炎は小児だけでなく、高齢者にも多くみられます。*C. trachomatis* 肺炎は、*C. trachomatis* に感染している母体からの産道感染で、新生児、乳児に無熱性の肺炎を発症します。
5. **マイコプラズマ肺炎**は、患者数が減少（基幹定点 5 医療機関あたり 3.20 → 2.60 人）したものの、患者の多い状態がつづいています。岡山市（3 人）・倉敷市（9 人）・備北地域（1 人）で患者報告がありました。今年は全国的に過去 5 年と比較してかなり多いと報告されています。[（国立感染症情報センター第 47 週マイコプラズマ肺炎グラフ）](#)。乾いた咳が長期間つづくときは、医療機関を受診してください。[マイコプラズマ肺炎 Q&A（厚生労働省）](#)
6. **流行性耳下腺炎**の定点あたり患者数は、全県では大きくは変わりませんでした（定点あたり 1.17 → 1.19 人）が、備中地域では再び感染症発生レベル 2 になりました（2.14 → 3.29 人）。
7. **RS ウイルス感染症**の定点あたり患者数は、前週と変わらず（定点あたり 0.70 → 0.69 人）、患者が多い状態がつづいています。患者の 78% は 1 歳以下の乳幼児で、乳幼児では重症化することもありますので注意が必要です。
8. **つつが虫病**の発生がありました。今年県内 3 例目です。つつが虫病はダニの一種であるツツガムシの幼虫に刺されることによって感染します。詳しくは感染症情報センターホームページ [【注意！】岡山県内で『つつが虫病』の発生がありました](#) をご覧下さい。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎		★	無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★★	クラミジア肺炎		★★★

【記号の説明】

前週からの推移：
 2倍以上の減少 1.1～2倍未満の減少 1.1未満の増減
 1.1～2倍未満の増加 2倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★★多い ★★★★★★非常に多い

※定点当たり患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

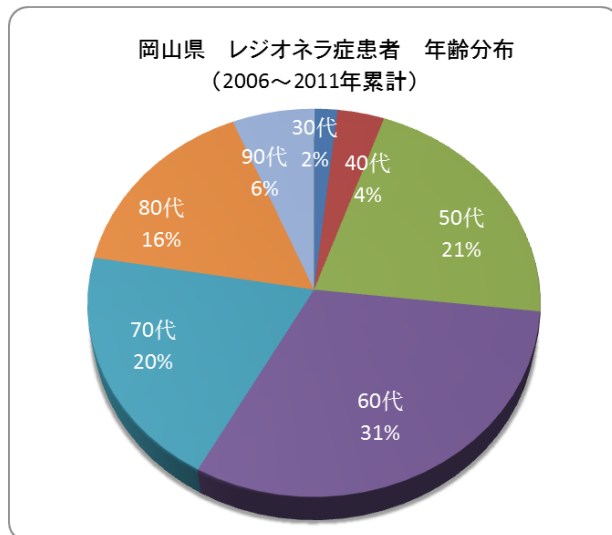
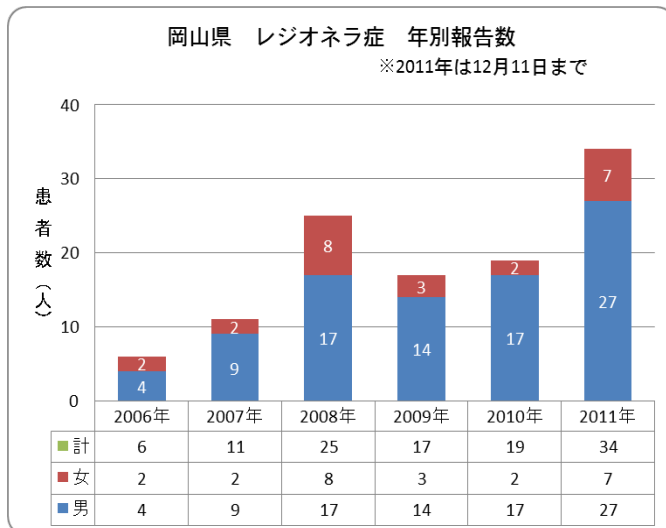
※クラミジア肺炎：本来クラミジア肺炎とは、クラミジアによる肺炎という意味で、肺炎クラミジア、トラコーマ・クラミジア、オウム病クラミジアによる肺炎が含まれます。しかし、肺炎クラミジアおよびトラコーマ・クラミジアによる肺炎と、人畜共通感染症で症状の強いオウム病とは病態や症状が異なるため、区別して扱われており、感染症法では肺炎クラミジアとトラコーマ・クラミジアをまとめてクラミジア肺炎（オウム病を除く）とし、定点把握感染症に分類されています。また、オウム病クラミジアによるオウム病は、全数把握感染症の4類感染症に分類され、診断された場合は医師の届出が必要です。

保健所別報告患者数 において **数字** は感染症マップにおいて レベル3
数字 は感染症マップにおいて レベル2 を示しています。

今週の注目感染症

レジオネラ症

岡山県では、今年レジオネラ症の報告が増加しています。今年は第49週（～12/11）までに34名の報告があり、過去5年間で最も多くなっています。過去5年間の累計では、患者は、女性より男性が多く、男性が全体の80%を占め、また年齢は60代が最も多く、50代以上で全体の94%を占めており、全国的にも中年の男性が多い傾向にあります。



【レジオネラ症とは】

レジオネラ症とは、レジオネラ属菌による呼吸器感染症で、肺炎型のレジオネラ肺炎と、インフルエンザ様熱性疾患のポンティアック熱の2つの病型があります。レジオネラ属菌はもともと水中や湿った土壌など環境中に存在する細菌で、15～43℃で増殖します。また、循環式浴槽水、空調施設の冷却塔水、給湯器の水など、人工的な温水中に生息する原虫類（アメーバ）の細胞内で大量に増殖します。

レジオネラ症は1999年4月から全数把握感染症の対象疾患となり、無症状病原体保有者を含めレジオネラ症と診断された場合、医師の届出が義務付けられています。

【症状】

レジオネラ肺炎は、2～10日（平均4～5日）の潜伏期間の後に発症し、悪寒・高熱・全身倦怠感・頭痛・筋肉痛などの他、呼吸器症状として咳・胸痛・呼吸困難が現れます。重症化すると、四肢の脱力・意識障害・歩行障害を伴う場合もあります。レジオネラ肺炎は、病気の進行が早く、急速に全身状態が悪化することがあり、注意が必要です。高齢者や新生児の他に、免疫機能が低下した人、糖尿病や慢性呼吸器疾患を有する人では肺炎を起こす危険性が高い傾向があります。

一方、ポンティアック熱は、突然の発熱・悪寒・筋肉痛で始まりますが一過性で、自然治癒します。

【感染経路】

レジオネラ肺炎は、レジオネラ属菌を含んだエアロゾル（霧状の液体）や粉塵などを吸入することによって起こる呼吸器感染症です。レジオネラ属菌に汚染された循環式浴槽水、24時間風呂、シャワー、噴水、洗車などのエアロゾルを吸入することによって感染し、温泉水を飲んで発症した事例もあります。土木・粉塵作業・園芸作業により感染することも指摘されています。

ただし、患者との接触によって感染したという人から人への感染報告はありませんので、患者を隔離する必要はありません。

【治療と予防】

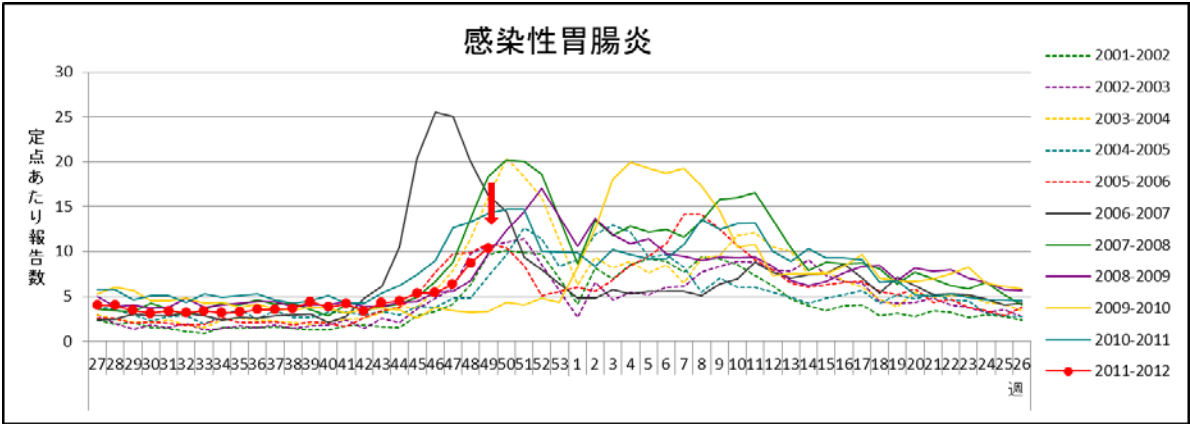
レジオネラ症は、エリスロマイシン、リファンピシン、ニューキノロンなどの抗菌薬が有効とされています。有効な抗菌薬の投与がされない場合、重篤な症状になることがあります。

レジオネラ属菌が土埃などとともに、冷却塔・循環式浴槽・給湯設備・加湿器などの人工循環水に混入することは避けられません。家庭内の24時間風呂・加湿器などは、水を適宜取り替え、浴槽やタンクの中を清潔に保ちましょう。また、エアロゾルや粉塵などを吸入するような作業をする時は、マスクの着用が感染予防になります。公衆入浴施設などにおいては、[管理マニュアル](#)に沿った適切な清掃、消毒を行うことが重要です。

- [レジオネラ症発生防止のために（岡山県生活衛生課）](#)
- [旅館・公衆浴場等におけるレジオネラ症防止対策についてのホームページ（厚生労働省）](#)
- [レジオネラ症（国立感染症情報センター）](#)

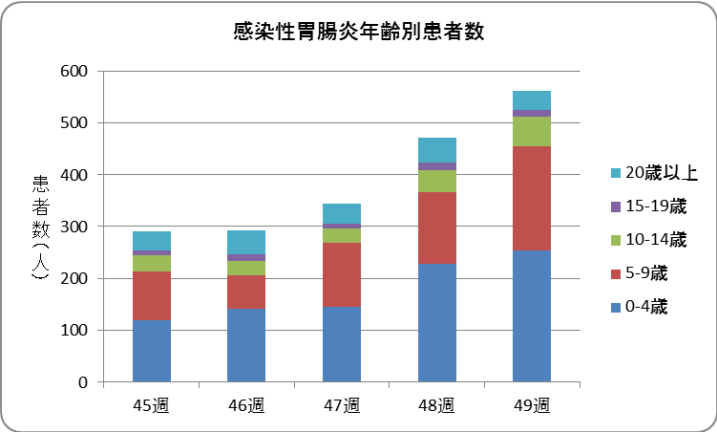
感染性胃腸炎情報 第 49 週 2011 年 12 月 5 日 ～ 12 月 11 日

- 岡山県内の患者報告数は 562 名、定点あたり 10.41 人（定点医療機関 54 定点）に増えました。
- 岡山市・倉敷市・備前地域など、県南部で患者が増加しました。
- 感染性胃腸炎による臨時休業（学級閉鎖）が、岡山市・倉敷市・勝央町で各 1 施設ありました。
- 【第 50 週 速報】 感染性胃腸炎による臨時休業（学級閉鎖）が、倉敷市 2 施設・玉野市 1 施設でありました。



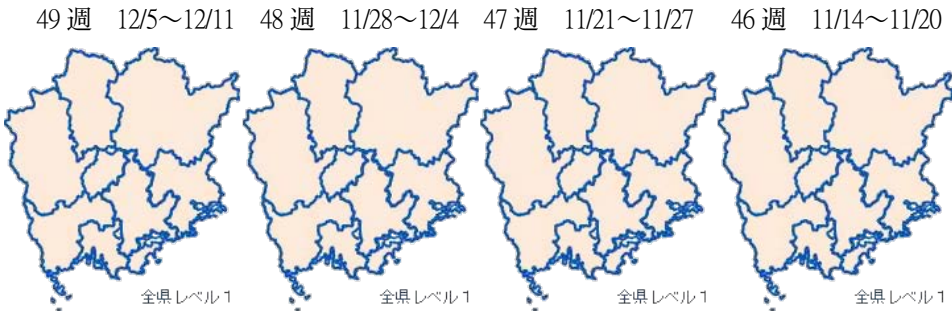
※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ～ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎の定点あたり患者数は、県南部を中心に増加し（定点あたり 8.74 → 10.41 人）、岡山市（12.50 人）、倉敷市（11.73 人）、備前地域（10.20 人）で患者が急増し、美作地域（10.67 人）では患者が多い状態が続いています。第 49 週、感染性胃腸炎による学級閉鎖が岡山市・倉敷市・勝央町で各 1 施設ありました。外出後や食事前の手洗いを徹底し、感染予防に心がけましょう。また、吐物や下痢の取り扱いにも注意が必要です。現在、岡山県では『食中毒（ノロウイルス）注意報』を発令し、食中毒予防を呼びかけています。



患者の年齢分布は 0－4 歳が最も多く、約半数を占めています。中でも 1 歳の患者が多く報告されています。お子さんの体調の変化に注意して、早めに医療機関を受診してください。嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので注意が必要です。

岡山県地区別 感染症マップ 感染性胃腸炎 2011 年 49 週



レベル 3		レベル 2	レベル 1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0<20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないと レベル3が継続されます。

インフルエンザ情報 第 49 週 2011 年 12 月 5 日 ～ 12 月 11 日

岡山県の流行状況

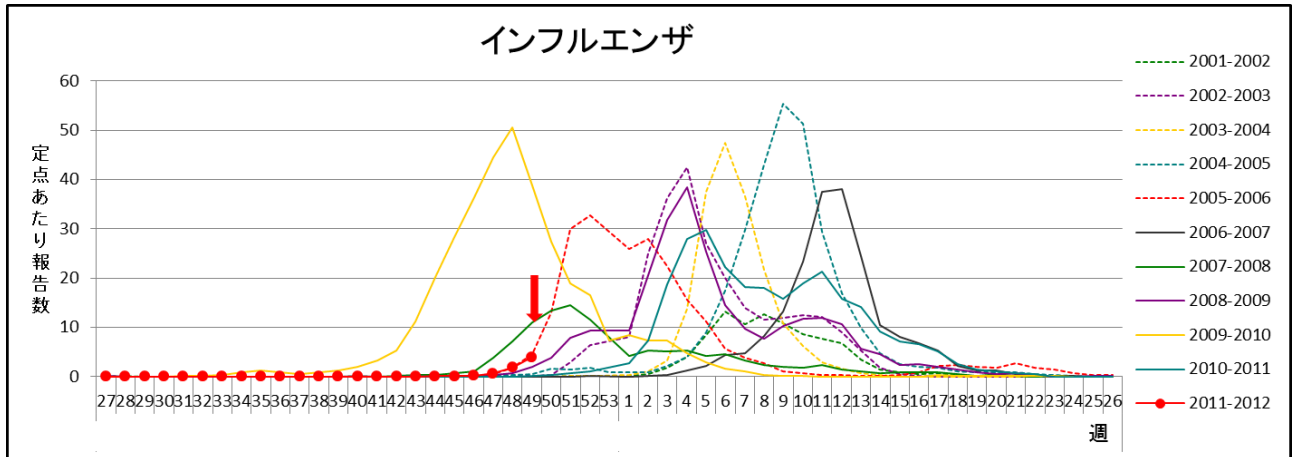
- 岡山県内の患者報告数は 339 名（定点あたり 4.04 人）の報告があり、前週より増加しました。
- 特に倉敷市・備中地域・備前地域で患者が増加し、倉敷市では感染症発生レベル 2 になりました。
- インフルエンザとみられる臨時休校が 10 施設（和気町 2、浅口市 2、倉敷市 6）ありました。
- このうちの一事例から、インフルエンザウイルス AH3 型が検出されました。

【速報】第 50 週 インフルエンザとみられる臨時休業がありました。

▽12 月 12 日：備前市 2、浅口市 1、倉敷市 2 ▽12 月 13 日：倉敷市 2

▽12 月 14 日：浅口市 1、倉敷市 2

▽12 月 15 日：岡山市 1、倉敷市 2



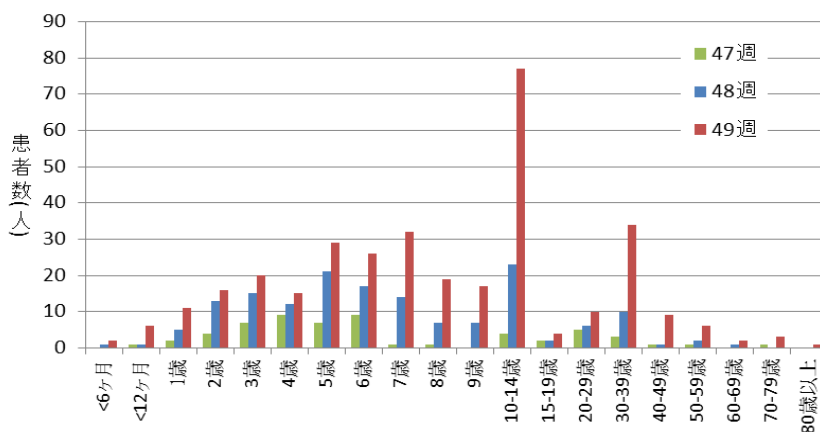
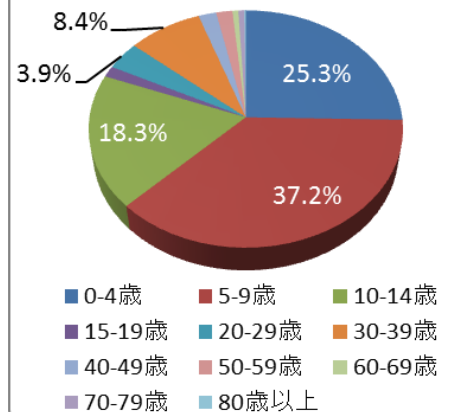
インフルエンザ患者数は、倉敷市 197 名、備中地域 101 名、備前地域 33 名、岡山市 5 名、美作地域 3 名の報告があり（84 定点医療機関定点あたり 4.04 人）、前週（1.88 人）より増加しました。倉敷市（5.38 → 12.31 人）・備中地域（5.17 → 8.42 人）・備前地域（0.60 → 2.20 人）で患者が増加し、倉敷市は定点あたり患者数が 10.00 人を越え、感染症発生レベル 2 になりました。また、これらの地域では学校の臨時休業も相次いで報告されています。岡山市や県北部地域では患者は報告されているものの、まだ少数で集団発生など大きな流行はみられません。

浅口市で発生した集団感染事例から、インフルエンザウイルス AH3 型が検出されました。

1. 年齢別患者発生状況 第 49 週（12/5～12/11）

患者は、臨時休業の報告があった主に幼稚園児や小学生に該当する 5～14 歳で増加しました。乳児や 70 歳以上の高齢者の報告はあるものの、まだ少ない状態です。

インフルエンザ年齢別患者数

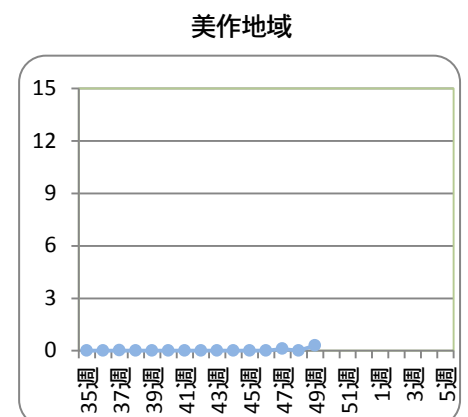
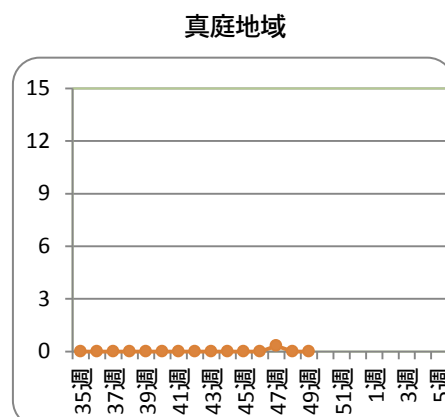
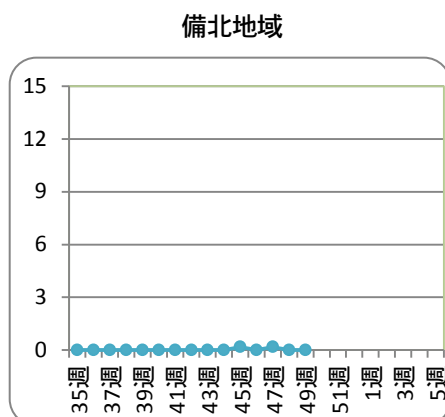
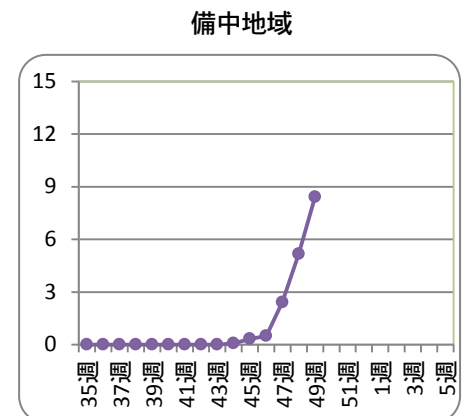
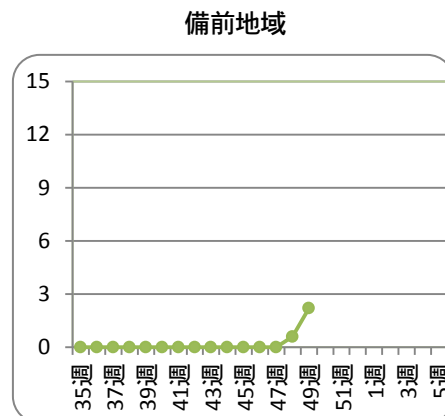
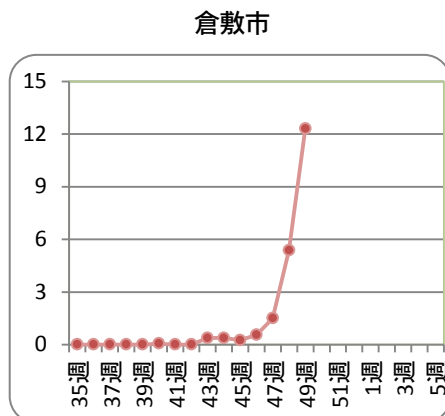
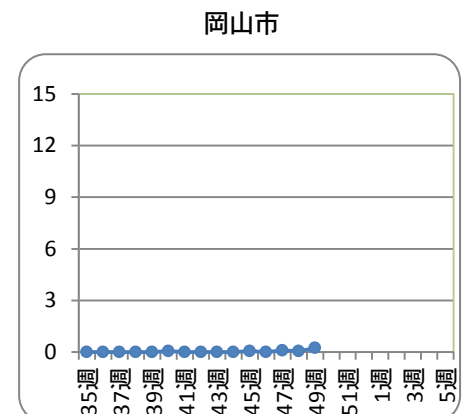
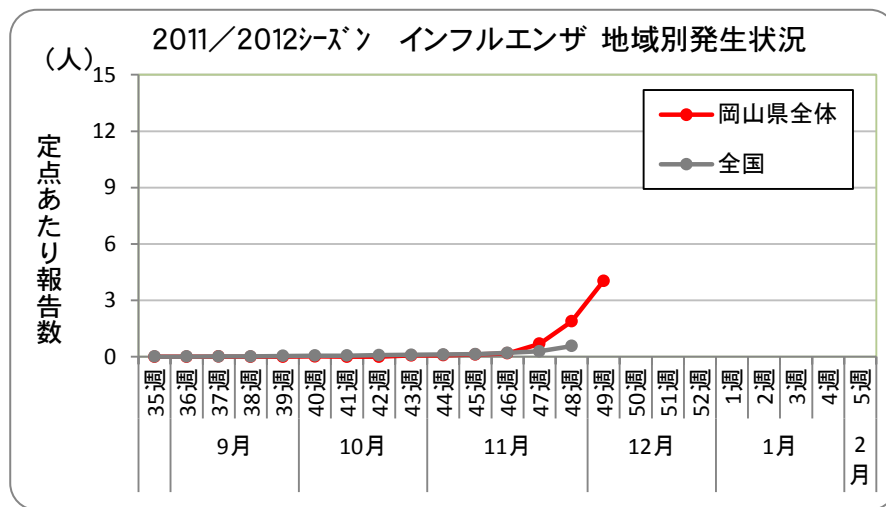
2011/2012 インフルエンザ
年齢割合（第 49 週まで）

2. 地域別発生状況

第49週（12/5～12/11） 前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	339	↑	備 中	患者数	101	↑
	定点あたり	4.04			定点あたり	8.42	
岡山市	患者数	5	↑	備 北	患者数	—	—
	定点あたり	0.23			定点あたり	—	
倉敷市	患者数	197	↑	真 庭	患者数	—	—
	定点あたり	12.31			定点あたり	—	
備 前	患者数	33	↑	美 作	患者数	3	↑
	定点あたり	2.20			定点あたり	0.30	

【記号の説明】 前週からの推移： ↓ 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 → 1.1未満の増減
 ↗ 1.1～2倍未満の増加 ↑ 2倍以上の増加



第49週（12/5～12/11）に検出されたインフルエンザウイルス

(国立感染症情報センター インフルエンザウイルス分離・検出速報 2011/2012 シーズン)

[illegible]

2. 臨時休業施設数の内訳 第49週(12/5~12/11)

第 49 週、学校等の臨時休業は 10 校ありました。

倉敷市：幼稚園 1、小学校 4、中学校 1

備前地域：幼稚園1、小学校1

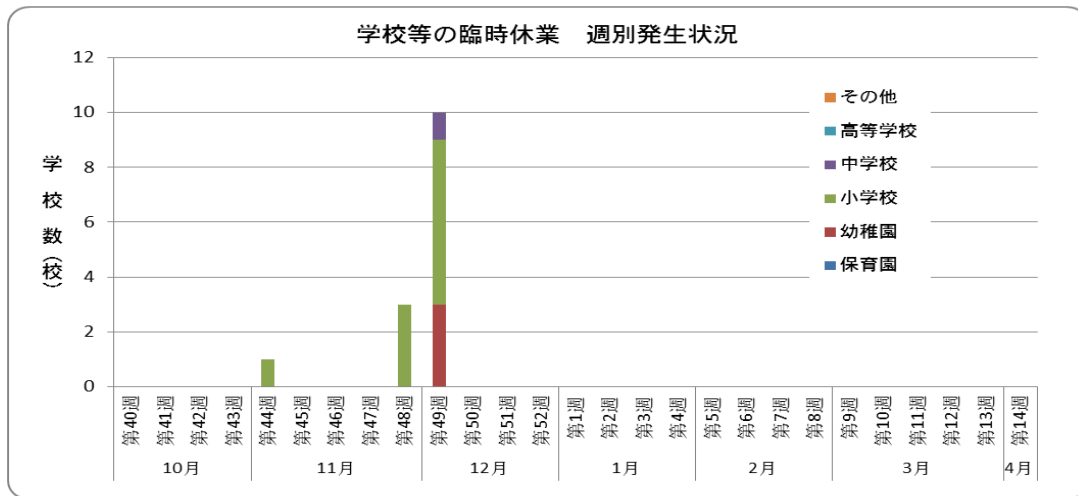
備中地域：幼稚園1、小学校1

(第 50 週発生の臨時休業施設の掲載は第 50 週 週報で行います。)

第 49 週：10 施設

累計：14 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累積	今週	累計	今週	累積	今週	累積	今週	累積	今週	累積
施設数	—	—	3	3	6	10	1	1	—	—	—	—



➤ 入院時の状況と年齢別内訳の累計 第49週（12/5～12/11）まで

(県内基幹定点 5 医療機関による報告)

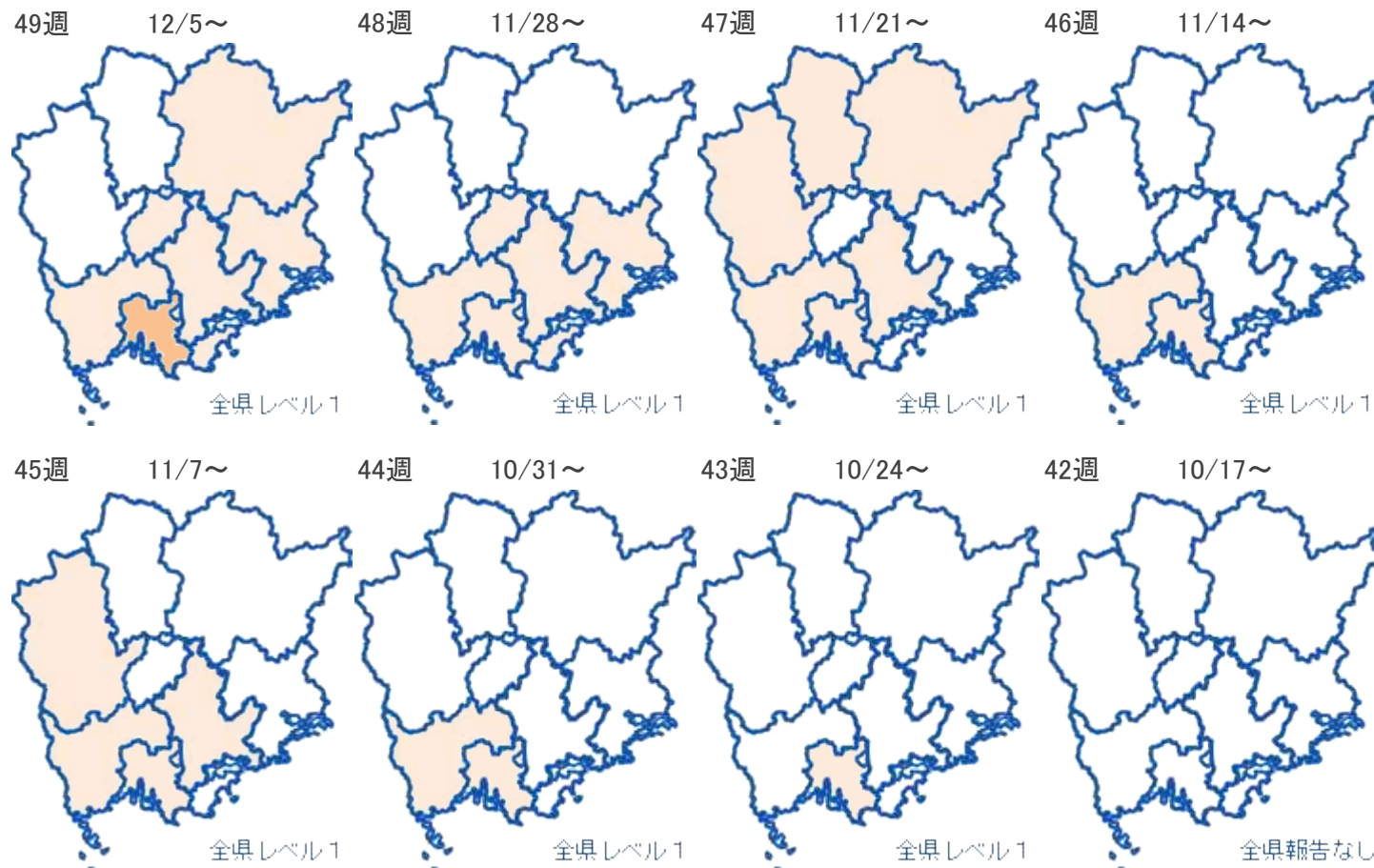
第 49 週、インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。今シーズン、第 49 週までに 1 名の入院患者報告がありました。

* 平成 23 年 9 月 5 日以降に入院した各患者の累計数(入院日を登録)

[illegible]



インフルエンザ



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満	0 < 10 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

保健所別報告患者数 2011年 49週 (2011/12/05～2011/12/11)

2012年1月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	339	4.04	5	0.23	197	12.31	33	2.20	101	8.42	—	—	—	—	3	0.30
RSウイルス感染症	37	0.69	17	1.21	9	0.82	3	0.30	6	0.86	—	—	—	—	2	0.33
咽頭結膜熱	5	0.09	3	0.21	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	4	0.29	26	2.36	1	0.10	8	1.14	—	—	5	2.50	—	—
感染性胃腸炎	562	10.41	175	12.50	129	11.73	102	10.20	56	8.00	20	5.00	16	8.00	64	10.67
水痘	48	0.89	22	1.57	7	0.64	7	0.70	8	1.14	1	0.25	—	—	3	0.50
手足口病	102	1.89	24	1.71	35	3.18	19	1.90	10	1.43	—	—	1	0.50	13	2.17
伝染性紅斑	14	0.26	4	0.29	1	0.09	—	—	4	0.57	—	—	1	0.50	4	0.67
突発性発疹	23	0.43	10	0.71	5	0.45	4	0.40	2	0.29	—	—	—	—	2	0.33
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	64	1.19	20	1.43	16	1.45	5	0.50	23	3.29	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	1	0.25	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	1	0.20	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	3	3.00	2	2.00	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 49週 (2011/12/05～2011/12/11)

2012年1月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	339	4.04	5	0.23	197	12.31	33	2.20	101	8.42	—	—	—	—	3	0.30
咽頭結膜熱	5	0.09	3	0.21	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	4	0.29	26	2.36	1	0.10	8	1.14	—	—	5	2.50	—	—
感染性胃腸炎	562	10.41	175	12.50	129	11.73	102	10.20	56	8.00	20	5.00	16	8.00	64	10.67
水痘	48	0.89	22	1.57	7	0.64	7	0.70	8	1.14	1	0.25	—	—	3	0.50
手足口病	102	1.89	24	1.71	35	3.18	19	1.90	10	1.43	—	—	1	0.50	13	2.17
伝染性紅斑	14	0.26	4	0.29	1	0.09	—	—	4	0.57	—	—	1	0.50	4	0.67
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	64	1.19	20	1.43	16	1.45	5	0.50	23	3.29	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	1	0.25	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第49週 2011/12/05～2011/12/11)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	339	2	6	11	16	20	15	29	26	32	19	17	77	4	10	34	9	6	2	3	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	37	16	5	8	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	-	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	-	-	1	-	3	1	10	8	8	1	3	8	-	1
感染性胃腸炎	562	7	37	65	53	42	50	56	46	44	33	22	57	13	37
水痘	48	-	1	14	7	7	5	4	3	2	-	2	3	-	-
手足口病	102	-	8	27	21	19	10	4	6	2	3	-	1	-	1
伝染性紅斑	14	-	1	1	3	2	1	3	1	1	1	-	-	-	-
突発性発疹	23	1	16	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	64	-	-	3	7	5	11	19	7	2	-	6	4	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

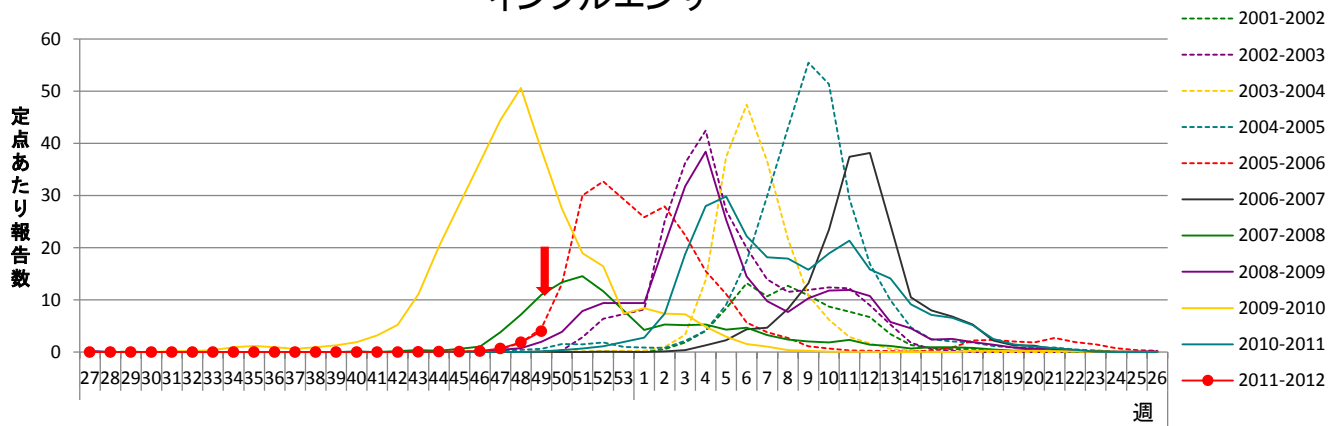
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

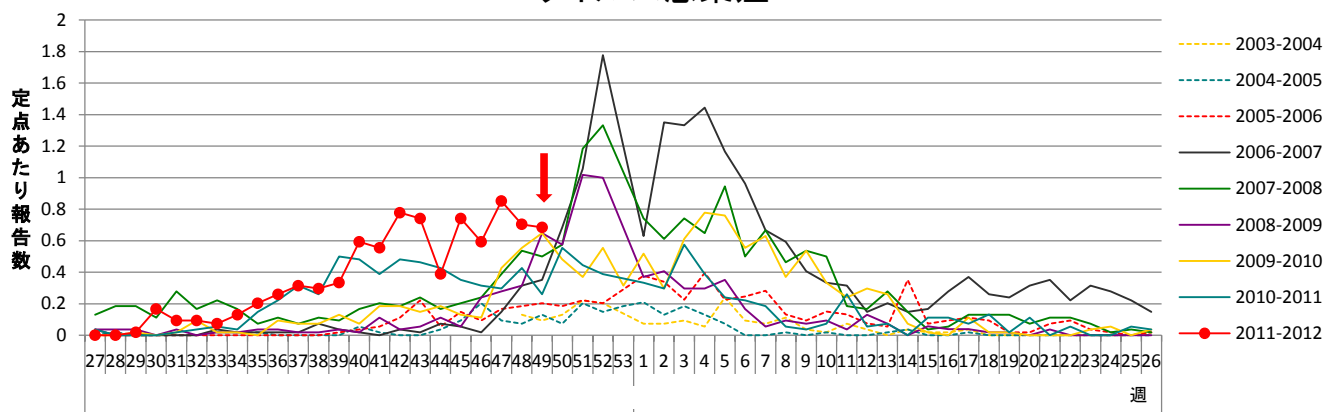
2011 年 49 週

分類	疾病名	2011			疾病名	2011			疾病名	2011		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	486	352	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	64	66
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	2
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	3	1	デング熱	-	-	7	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	3	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-
	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	34	19	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	10	13	ウイルス性肝炎*3	-	9	7	急性脳炎*4	-	3
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	1
後天性免疫不全症候群		-	14	22	ジアルジア症	-	2	5	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
先天性風しん症候群		-	-	-	梅毒	-	9	9	破傷風	-	3	1
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	3	風しん	-	1	2
麻しん		-	4	3		-	-	-		-	-	-

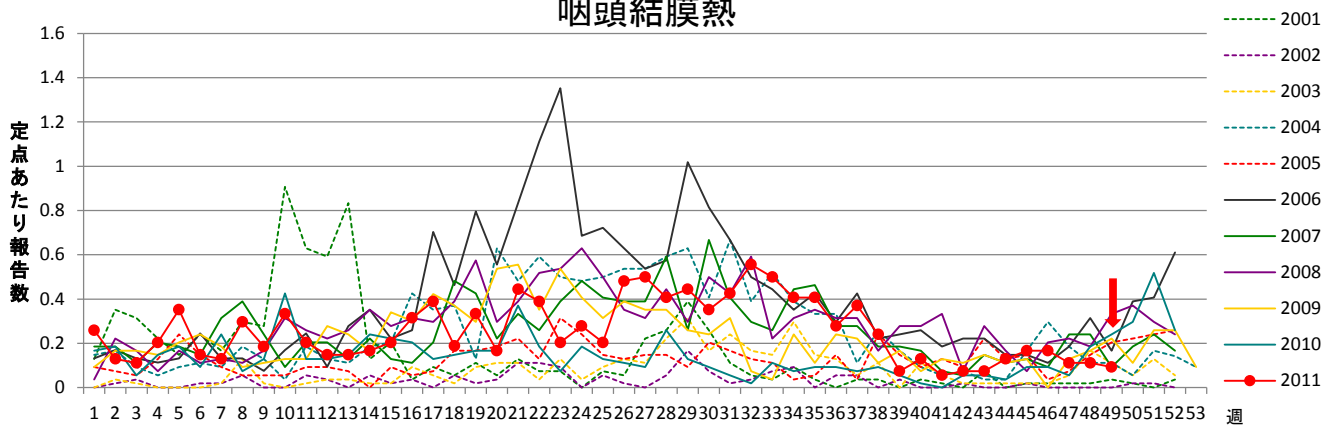
インフルエンザ



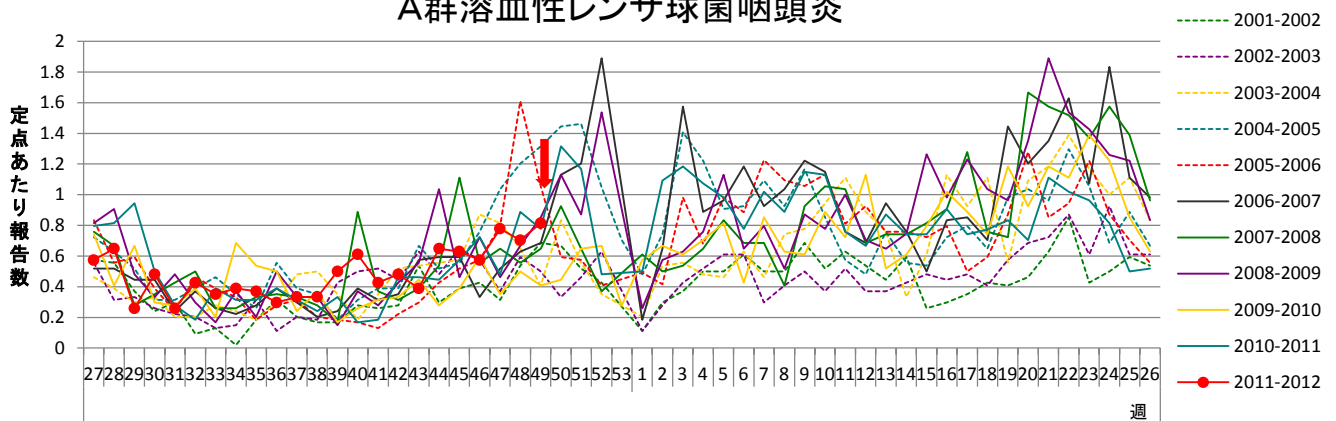
RSウイルス感染症



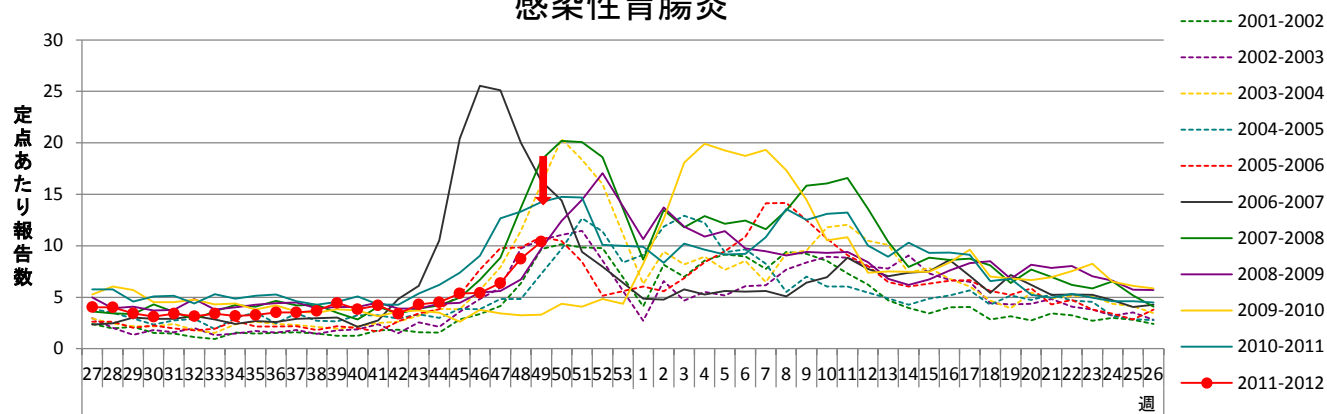
咽頭結膜熱



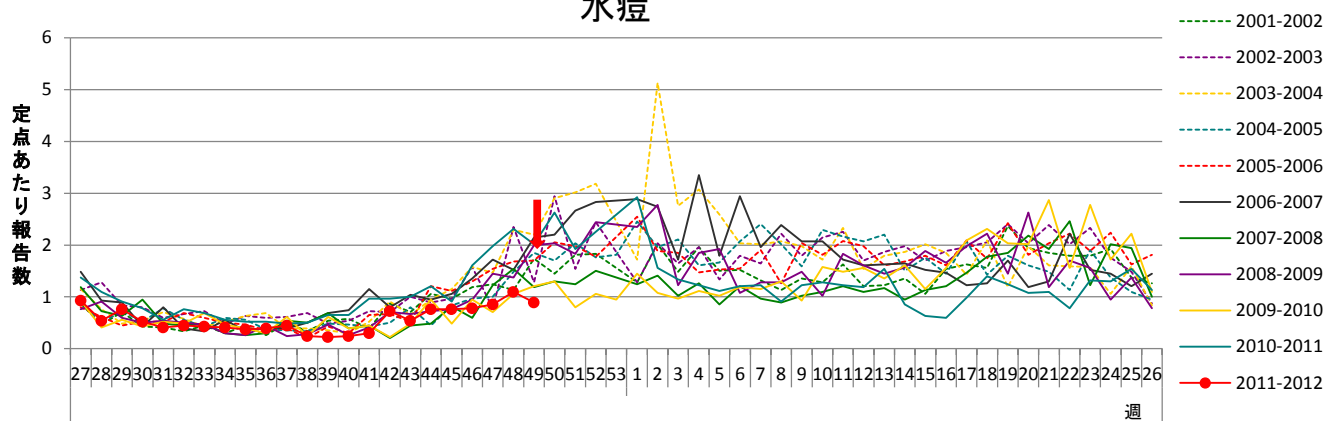
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



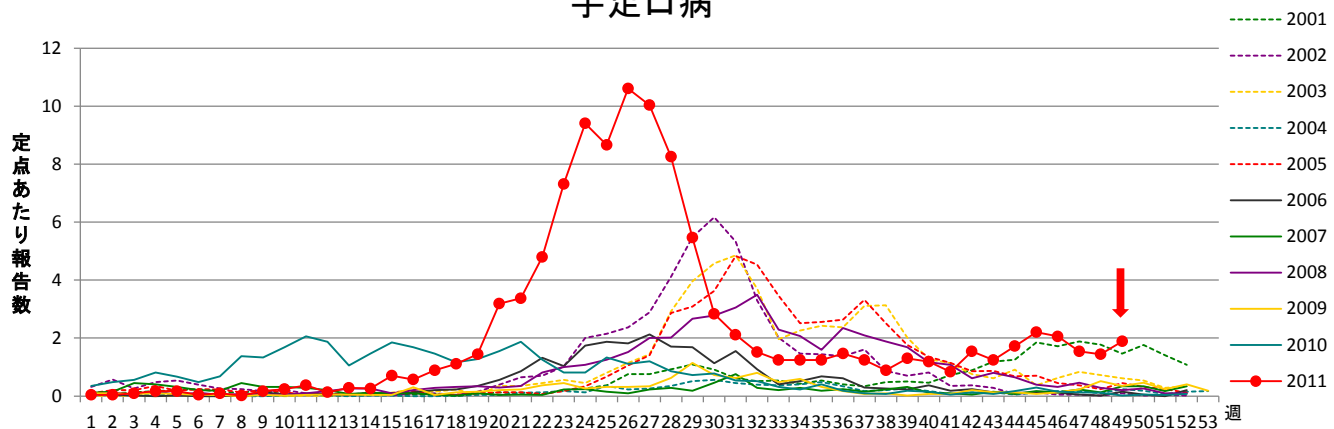
感染性胃腸炎



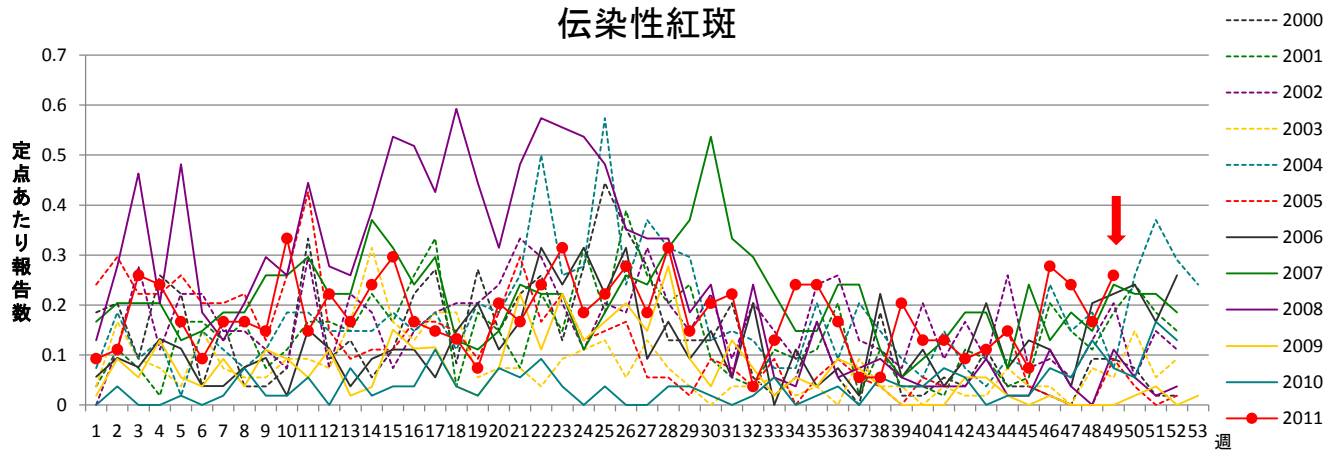
水痘



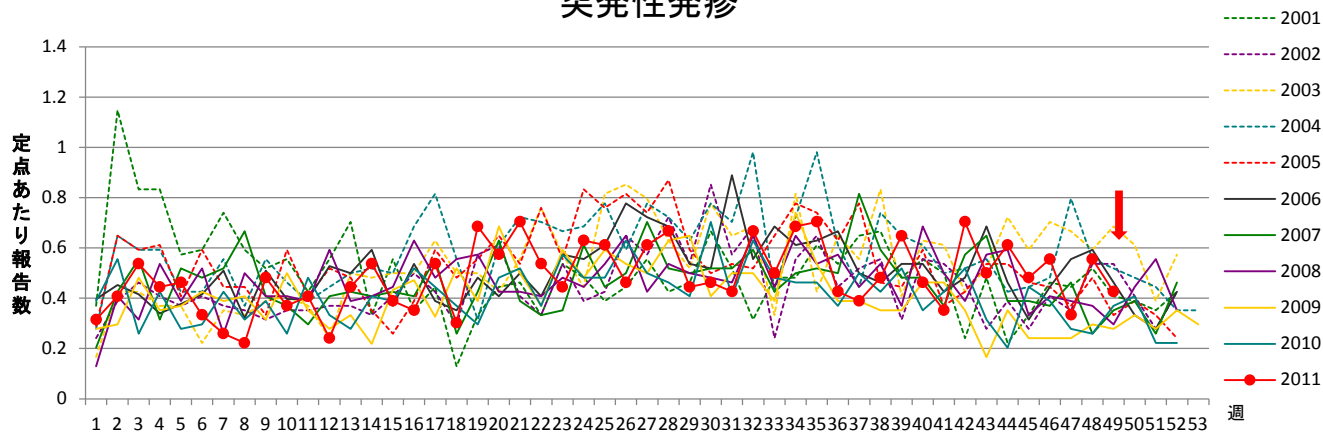
手足口病



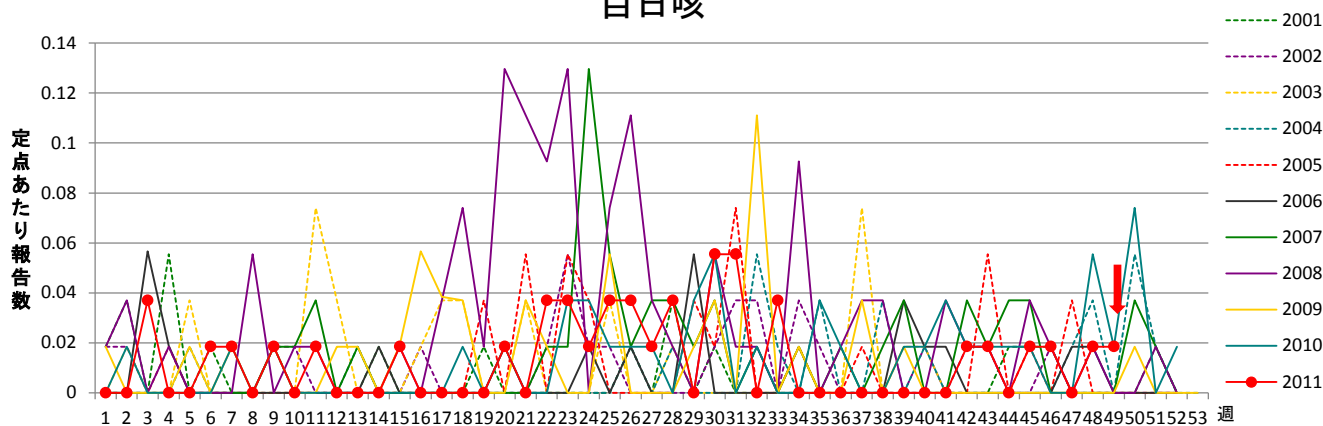
伝染性紅斑



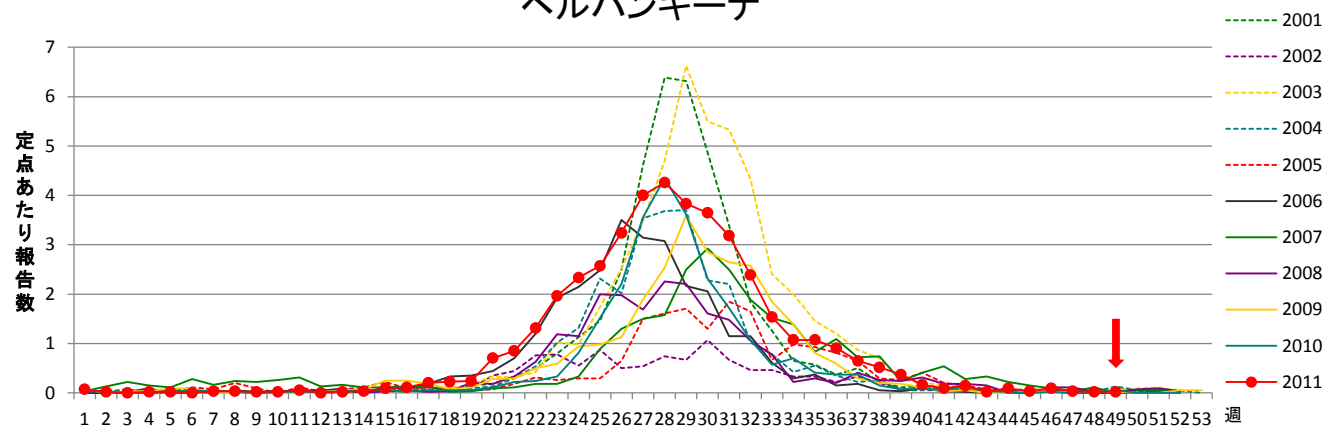
突発性発疹



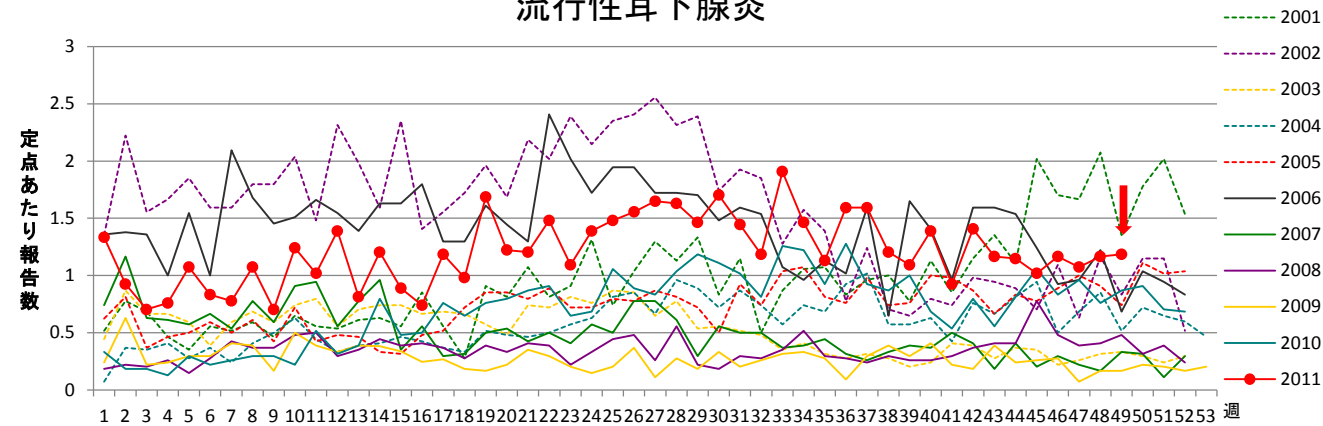
百日咳



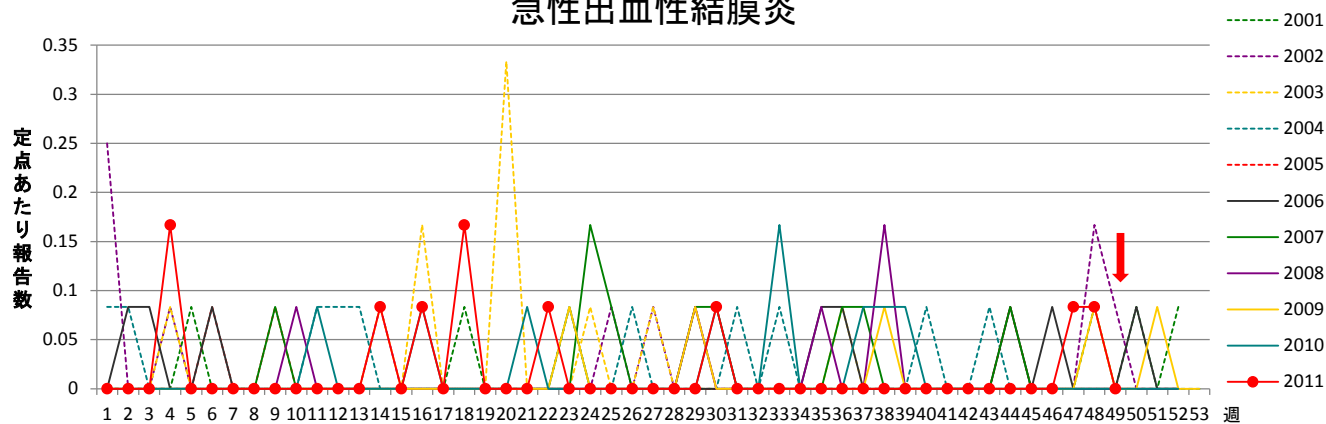
ヘルパンギーナ



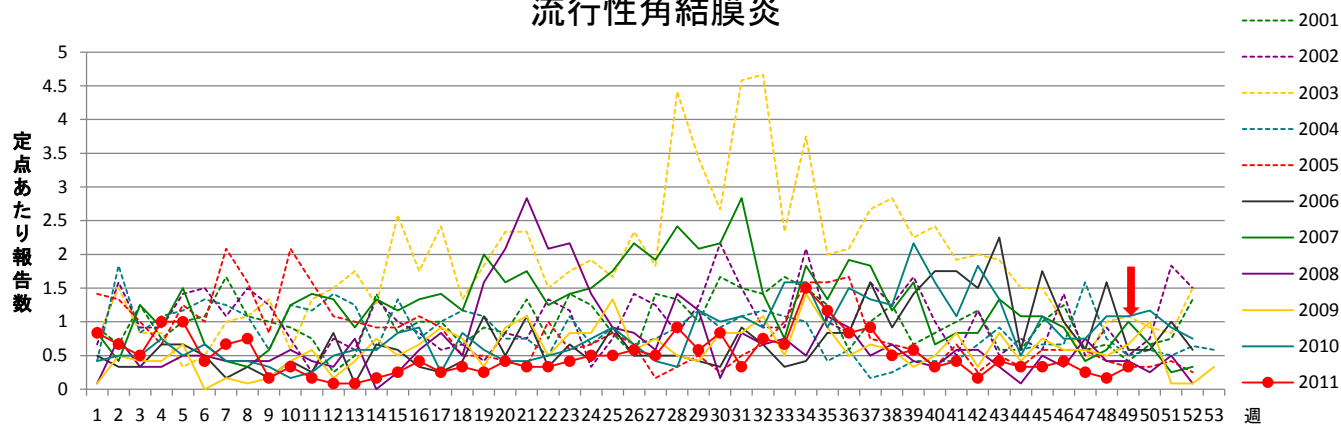
流行性耳下腺炎



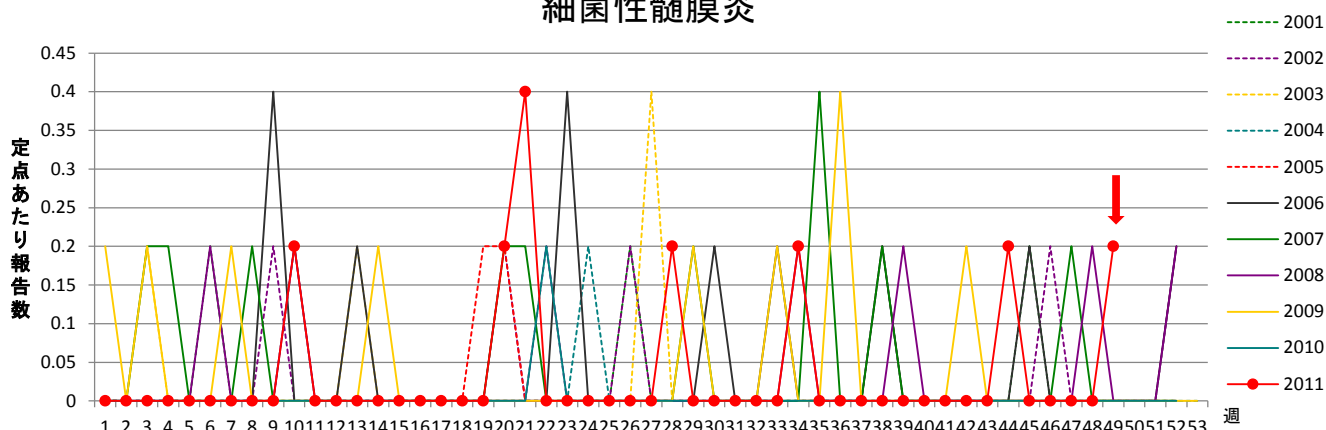
急性出血性結膜炎



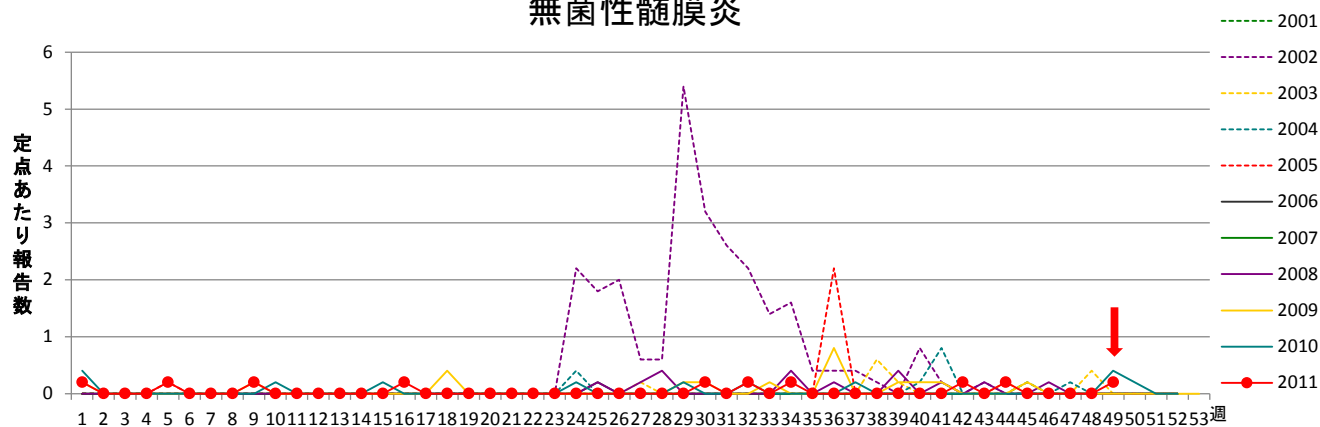
流行性角結膜炎



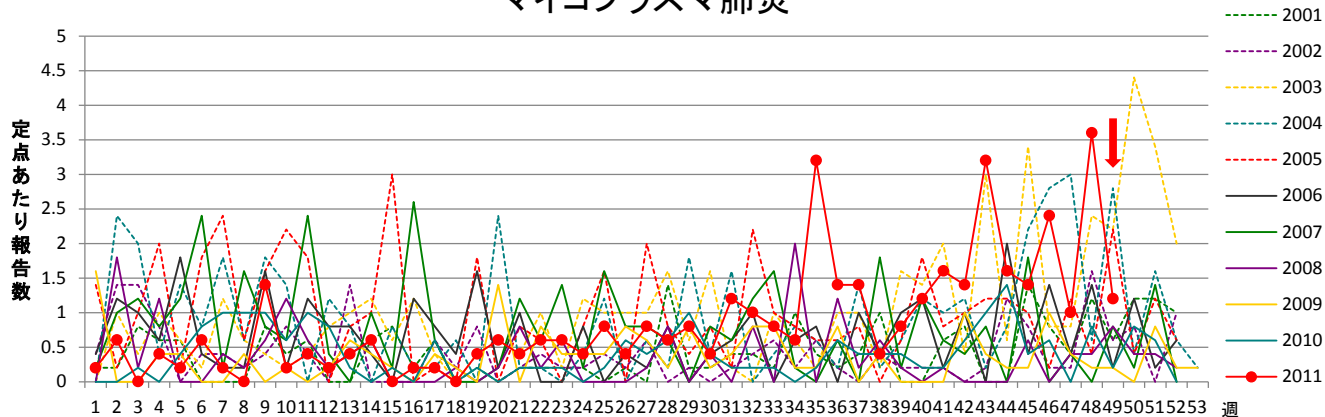
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

